

# 尖った「50点の人」がいい

## 少年時代から続くこだわりのものづくり



目標に向かって貪欲に  
「夢のまた夢」に挑戦してほしい

1997年に世界初の量産ハイブリッド車として誕生した「プリウス」。環境にやさしく、ドライバーの快適性を追求する同車の4代目は、2015年12月に発売されて以来、抜群の販売台数を誇り、“快走”を続けている。その開発責任者が豊島浩二さん。大阪大学で学んだ知識と学生時代のアルバイト経験が豊かな感性を育て、理想の車を生み出した。

### ●OB訪問

●トヨタ自動車株式会社  
Mid-size Vehicle Company MS製品企画  
ZF チーフエンジニア  
豊島浩二 — Kouji Toyoshima



トヨタ自動車株式会社 本社 技術本館前で

プリウスならではの「なめらかな走り心地」など試乗の感覚をガムで表現した「プリウス試乗味ガム」



●豊島浩二(とよしま こうじ)氏  
大阪大学工学部で船舶海洋工学を学び、1985年卒業。同年トヨタ自動車に入社。カラー設計室、レクサスLS製品企画室を経て、2011年11月から次世代環境車全般を取りまとめる部署「ZF」で、3、4代目プリウス、プリウスPHVのチーフエンジニアに就任、現在に至る。また、災害に強い地域をめざした自動車の外部電源普及活動「SAKURAプロジェクト」を主宰。



### 企業情報

■トヨタ自動車株式会社 (愛知県豊田市トヨタ町1番地)  
豊田佐吉が創業した豊田自動織機製作所内に1933年に開設した自動車部が起源。1937年トヨタ自動車工業株式会社設立。現在はプリウスのほか、クラウン、カムリ、カローラなど数多くの車種を生産、販売。世界で有数の規模を誇る日本の自動車メーカーで、2012年～15年、販売台数は4年連続で世界一。

### ■1000人以上いるトヨタ阪大同窓会の幹事長

オフィスで久しぶりに会った女性社員と談笑する豊島浩二さん。2人とも社員証のネームホルダーにいちよのマークを付けていた。「僕が入社した時はトヨタ自動車で大阪大学出身者は300人ぐらいだったのが、今では1000人以上、互いに顔を知らない人が増えました。いちよのマークを付けていると、すれ違った時に阪大の卒業生だと一目でわかり、コミュニケーションがとれて仕事がスムーズに進みやすくなります」。トヨタの同窓会「阪大会」幹事長として、いまま母校を想い続けている。

### ■「社会に貢献するものを作りたい」と阪大工学部へ

子供の頃から機械いじりが大好きで、「ラジコンなどの中身はどうなっているのか？」と分解しては元に戻せず、親によく叱られました。「二次試験で苦手な英語がなかったんで…」と冗談を交えて大阪大学を選んだ理由を語るが、「社会に貢献する大きくて動くものを作りたい」と船舶海洋工学、振動工学を専攻。「勉強にはきちんと取り組んでいましたが、夜中に大学で実験しては朝に帰る生活で、担当教授から「どこに行っているんだ」とよく怒られました。勉強ばかりでなく、友人たちとドライブを楽しむなど、充実した学生生活を送った。

### ■アルバイトで培ったビジネス感覚とコミュニケーション力

なかでも、その後の人生に役立っていると実感しているのは、「社会勉強」と位置づけて3年間頑張った個人商店でのアルバイト。「野菜と魚を売っていました。小さな店だったので商売全体が分かり、ビジネス感覚を身につけられました。また、大阪のおばちゃんたちを相手にものを売るコミュニケーション力も鍛えられました」と笑顔で振り返る。

### ■お客様に密着した車づくり

トヨタに入社以来、ずっとこだわっているのは「お客様に密着した車づくり」。学生時代に通学やドライブで車に乗っていた経験も活かし、1人のドライバーとして感じる快適性、利便性を追求している。例えば、過去に尾骨骨折したために長時間座ってられない豊島さんは、その経験から「僕には硬めのシートに座るとお尻がわずかにゆくなる『お尻センサー』があって、僕が長時間座っても気持ちいいのを一つの基準に開発しました」と話す。座右の銘は「想像できることは創造できる」。2016年12月からはEV車の開発と普及に取り組み、「より環境にいい車を」と新たな夢に向かって走り続けている。

### ■夢に巡り会えるかは努力次第

大阪大学で学ぶ後輩に、「目標に向かって貪欲であってほしい。最近では、言われたことをそつなくこなす80点の優等生が多いですが、私は自分のやりたい仕事だと目の輝きが違うという尖った50点の人材がほしい。夢に巡り会えるかどうかは自分の努力にかかっています。『夢のまた夢』に挑戦してほしい」と熱いエールを送る。

